

—2022 年度 甲南女子中学校・高等学校 目標設定および自己評価書

1. 2022 年度の学校重点目標・具体的な取り組み

本校教育理念	建学の理念「まことの人間をつくる」を基盤に、知性と品格を備え、人生や社会に対して前向きに取り組む自立した女性を育成する。
2022 年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 未来を切り拓く力となる協働・探究型教育モデルの創造 2. 進路指導の強化 3. 生徒募集力の強化 4. 充実した ICT 環境の構築と、インタラクティブな教育活動の展開 5. 教職協働による組織体制の強化と充実
2022 年度の具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1. (1)「甲南女子メソッド」の進化 (2)新学習指導要領に準拠した教育課程の実践 2. (1)強固な進路指導システムの構築 (2)入試区分等に応じたサポート体制の強化 (3)甲南女子大学への進学率増加 3. (1)情報収集の強化と分析に基づく募集戦略の展開 (2)入試広報戦略の強化 4. (1)学習環境の整備 (2)既存 ICT インフラの更なる活用 5. (1)生徒満足度向上に向けた組織一体による取り組み (2)安定的な学校運営のための業務体制構築

2. 2022 年度の各分掌・学年・教科の重点目標・具体的方策

	重点目標	具体的方策	自己評価	
			達成状況	今後の方策
学校経営	<ol style="list-style-type: none"> ①中学入学者数を安定的に確保し、財政基盤の健全さを維持する。 ②大学進学実績の向上を目指した体制と方策の確立を目指す。 ③教職協働を推進し、教職員の働き方改革に資する。 ④ICT 機器を用いた教育内容の充実を図る。 ⑤コロナ禍においても、形態を変えて行事・研修旅行などの実施を目指す。 	<ol style="list-style-type: none"> ①インクルーシブ教育の重要性が喧伝される今の時代に女子校で学ぶことの意義を、広報の折にも伝え続ける。 ②進路指導のスキルに長けた教員の育成を念頭に置いた研修と人事計画。 ③煩雑な事務作業の多い、ICT 委員長、入試広報室の業務の洗い出しを行い、職員への移管・助手への業務の委託をはかる。 ④教科会による高校新課程の研究と、教材の蓄積・改善 ⑤新型コロナウイルス感染まん延時の代替旅行・行事実施方法の検討を続ける。 	<ol style="list-style-type: none"> ①コロナ禍の影響で女子の中学受験者が激減した学年を迎えて各校が女子の入学者を激減させる中、本校入学者数は 186 名となった。 ② GoogleClassroom(授業・協同作業支援ソフト)を使って、進路指導部からの情報や先生方への課題を送信するシステムを準備した。 ③ mimamorume(緊急メールシステム)を通じて保護者からの欠席・遅刻連絡を受信し、職員が即座に教務システムにデータを移行、担任が確認できる体制を構築した。情報主任の業務を整理して、情報助手に委託し、主任本来の業務に従事する時間を増やすことができ 	<ol style="list-style-type: none"> ①中学受験者希望者数がコロナ禍の影響から回復しつつある学年を迎える 2024 年度入試では、入学者数 195 名確保すると共に、心身の不調から転出する生徒を減少させるためにさらにきめ細かな指導に努める。 ②今後の活用を通じてスキルアップに努める。 ③教職協働体制を維持すると共にさらに業務内容の見直してを行い、教員の事務的作業の削減と効率化を図る。 ⑤今後とも感染状況を見極めながら、学校生活の正常化を目指して、全校集会の復活や行事の正常化を模索する。また、保護者の行事への参加の機会と情報発信を増やし、学

			た。 ④ICT を用いた独自教材の開発を教員各自がすすめ、蓄積している。 ⑤学校・学年行事への保護者の参加人数制限を緩和、校外学習・研修旅行をほぼ予定通り実施するとともに、昨年度スキー研修を実施できなかった高校1年生は代替として、東京研修旅行を実施。	校教育活動への理解を深めてもらえるように努める。
入試広報	少子化、共学人気の今、本校の教育理念と教育方針をさらに深め、甲南女子のいまをリアルに伝えるため、本校の特徴や魅力を地道に広報していく。	①説明会の参加者をさらに増やすため、本校の魅力が伝わるよう内容を工夫する。さらに、土曜日の個別学校見学を強化する。 ②塾訪問を通じて、外から見た甲南女子を知り、広報活動につなげる。 ③HP リニューアルと積極的な発信をする。パンフレット・リーフレットの有効活用をする。Web を用いた広報活動に力を入れる。	①5 回のオンライン説明会、前年度より定員数を増やして3回の学校説明会を行った。生徒有志の校舎案内が大変好評であった。夏の校舎見学会、土曜日の個別見学会なども積極的に実施した。 ②塾にはパンフレット完成の時期、中学入試後に訪問、2023 年度の広報活動に繋げることができている。 ③HP リニューアルにより、よりリアルに「今」を伝えることができたようになった。	①学校説明会で在校生の魅力に触れる機会を増やす。生徒によるプレゼン、総合学習の発表など。少人数での見学会でも在校生の参加機会を増やす。 ②塾訪問の範囲を広げる。 ③HP 新規メディアサイト「Real」のオープン、行事の告知方法などの工夫をする。
教務部	高校新学習指導要領開始の年に当たり、生徒の個性に応じたカリキュラム、授業内容を構築していく	①新教育課程の見直し（自由選択科目・情報の配置など） ②シラバス・ループリックの追加・改訂 ③高校観点別評価の導入の方法	重点目標については概ね達成できたと思うが、2023 年度選択科目の決定の遅れや観点別評価についての情報の共有不足等などがあった。	今後のスケジュールを踏まえ、課題に対して話し合いを行い、迅速に決定、実行に移せるような計画立案を行う。
生徒指導部	学校生活を送る上での基本的な心得を通して、生徒自身が考え、自らを律する力を養い、社会性を育む。	生徒が自発的にあいさつできるような呼びかけを、和光会役員と実践する。 社会情勢を鑑み、柔軟に対応できる力とリーダーシップを育む機会を増やす。	中学・高校別に講堂朝礼を実施し、それぞれの自治の力を育む貴重な場を設けることができた。また、和光会役員が主体的に行動し、全校生徒と協働する場面が増えた。	従来の学校生活・行事を再構築し、よりよい環境を生徒が主体的に考え、実践できる体制を整える。
進路指導部	①昨年度から引き続き、「教育力」の向上を軸として、具体的な対策を共有し実践する。 ②生徒の学習習慣の確立のために手帳の活用状況を改善する。 ③生徒が高3 学年でぶれない進路希望を持つため	①基礎期、充実期において英数国のベネッセ GTZ の C、D ゾーンの生徒を把握し、ミニマムにすることを教科担当だけでなく担任学年で目標とする。教科の指導だけでなく、担任からの面談での言葉がけは特に基礎期において重要なファクターである。	①基礎期の学力習慣定着のために、iPad を活用したプログラムを試験採用した。夏期休暇中の補習等で活用し、今後本格採用するに資するかどうかを学年担当者と協議。 進路の決定した高3 生が指導する補習では、中1生	①基礎期における学習習慣確立のためには、従来の小テスト実施、ノートチェックだけでは不十分のため、生徒が進んで家庭学習を行うように工夫が必要。授業展開の工夫、デバイスの活用など、教員側からの仕掛けづくり

	に、低学年時より進路探求のプロセスを確立する。総合「探求」での取り組みにより自己と取り巻く社会の諸問題を意識し、生徒自身の興味関心を探る活動を進路へつなげたい。外部の講演や講座プログラムに積極的にすることで視野を広げることを奨励する。	②昨年度実施した手帳の活用実態調査を今年度も行う。利用はしているが活用はできていない、利用が生活面・学習面での向上につながっていない現状を周知し、活用向上のための工夫を促す。 ③GoogleClassroom（授業支援ソフト）、進路通信による発信に加えて、学年団と協力して興味関心を促す取り組みを行う。	徒が積極的な学習姿勢を見せた。進路指導部が枠組みを設定するだけでなくその機会を十二分に活かそうとする教科担当者の熱意が大きく寄与したと考える。 ②手帳の活用状況に関しては各学年にヒアリングを行っておらず、何らかの取り組みが必要。学校の取り組みが必要。学校選定のフォーサイト手帳を継続的に発注する生徒が一定数いることに注目したい。	の可能性を探りたい。 ②手帳の活用の本来の目的は自己管理能力の向上であることから、手帳だけでなく、スマートフォンとの付き合い方も含めて時間管理、目標設定（長期、中期、短期）、を徹底したい。スマートフォンとの付き合い方は、保護者の理解協力も必至であることからそのような呼びかけを学年とともに行いたい。
総務部	①総務部管轄行事の精選 ②資料室の整備	①通常に近い形での運営ができる方策を検討・実施するとともに、生徒が自主的に運営できる方策も検討する。 ②100周年関係の資料等を整理し、生徒が閲覧できる方策を検討する。	①生徒指導部とも連携し、中高別の講堂朝礼を実施することで、中学生の自治意識を高めることができた。 ②資料室の整理を進めることはできたが、生徒の閲覧方法は確立できなかった。	②エントランスを活用しながら、学園の歴史について生徒が閲覧できる環境を整備していく。
人権教育	①人権感覚を持った生徒と教師の支援・育成 ②新しい人権教育目標の策定 ③アサーションの実施と活動の充実 ④いじめ防止教育の実施 ⑤インクルーシブ教育の推進・支援体制設計への寄与	①安全対策を講じた上で、映画鑑賞や作文集の発行につながる活動を実施したい。また、道徳指導教諭と連携し、道徳の授業の活性化に寄与する。 ②新カリキュラム導入にあたって、人権教育目標を新たに策定する。 ③学年や学校カウンセラーを軸に、アサーションの充実を図る。今年は4学年での実施になる。安全を確保した上で、各学年に応じた活動内容が実施されるよう寄与したい。 ④いじめ防止教育プログラムや講演会を企画・実施する。 ⑤保健室・学校カウンセラーを含む教育相談委員会と連携し、生徒を支援するために必要な情報の提供・組織的な支援体制の設計に寄与する。	従来の形式で人権映画鑑賞会や作文集の発行を実施した。アサーション(相対理解と尊重)活動については、スクールカウンセラー主導による講義形式だけではなく、各学年での道徳授業や校外学習などの機会にも、対話的・協働的な活動に重点を置いて取り組むことができた。ただし、いじめ防止教育プログラムや講演会など、新たな試みに挑戦することができず、次年度に向けた課題としている。	保健室・学校カウンセラーを含めた教育相談委員会との連携を深めつつ、各学年が抱えている課題に応じたプログラムを企画および実施する。また、基礎期を中心にアサーション活動を充実させるとともに、人権映画鑑賞会や作文集の発行についても引き続き継続するなかで、人権問題に対する意識を高め、学校内はもちろん、国内および国外の人権問題に対しても関心を抱く機会を設ける。
環境教育	三学園合同環境学習の実施を周知し、本校生徒の積極的・自発的参加を目指す。また、貴重な学びの場であることを意識させる。	和光会、IGCE委員に自らの役割と、本プロジェクトの意義を理解させることで、周囲を巻き込んでの活動を促すとともに、学習意欲を持った参加者を募る。	今年度は感染症対策を取りながら、「農業体験学習」を実施することができた。 IGCE(国際環境親善)委員が Google フォームな	三学園で連携し、感染対策を取りながら今後も関連行事を実施できるようにする。 総合学習とも連携する形で、生徒の環境問題に対

			<p>どを活用し、積極的に参加生徒募集をすることができた。</p> <p>「住吉川環境学習」は高1の自己探求の生徒に声をかけ総合学習とも連携することができた。</p>	<p>する意識を高めるための方策を工夫する。</p>
ICT	<p>社会における情報機器の使用と情報の活用と差が生じないように、校内においても情報機器の発展的活用を引き続き目指す。</p> <p>また、校内の情報を整理・分析・活用が行える環境を構築するための素地を養う。</p>	<p>①ICT 委員会メンバー並びに各教員に外部セミナーの積極的参加を促すなど、各教員が社会のICT関連事項への情報感度を高められるようにする。</p> <p>②情報の活用に向けて、現状の把握。持っている情報、問題点・課題、今後の見通しなどの整理</p> <p>③他校・他業種関わらず、情報の整理・分析・活用の事例を参照し、本校における方向性を定める。</p>	<p>委員会のメンバーに外部セミナーを積極的に参加を推奨することはできず、日々の事務的な処理が多くを占める結果となった。</p> <p>上記同様、情報の整理・分析・活用についても具体的に進めることが叶わなかった。ただ、機器の活用場面は年を追うごとに増しており、情報機器の教育的活用に関しては年々着実に進んでいる。</p>	<p>ICT 教育に関して機器やプラットフォームの導入期は終わり、これから成熟期へと入っていく。ルールや運用方法などは都度見直しが必要であるので、全体を俯瞰して、今後のさらなる発展へと向けた緩やかで大きい舵取りが必要であると考えている。</p>
総合学習	<p>本校独自の自学創造教育の拡充に向けた、新しい総合学習の実施と教育内容の検証、改善</p>	<p>①「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業を展開する。</p> <p>②感染状況に配慮し、教員間で連携して新教育課程に基づいた授業計画、実施を行う。</p>	<p>感染状況に配慮し、1日研修や半日研修などを実施することができ、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を授業で展開することができた。</p> <p>2学年間(中1と中2、中2と中3、中3と高1)で総合学習成果発表会を実施し、成果や手法を共有することができた。また、甲南大学主催のリーサーフェスタ(研究発表大会)にも参加し、外部での発表の場を作ることができた。</p>	<p>新教育課程下での総合学習が高1まで実施できたことから、その成果を今一度検証し、さらなる活性化を検討</p> <p>協働学習や学外と連携した対話的な学びの実施</p> <p>総合学習担当教員への情報提供、生徒の発表の機会の更なる拡充、内容の向上。</p>
国際教育	<p>①海外姉妹校との交流の維持・促進。2023年度、姉妹校との直接交換留学に向け準備をすすめる。</p> <p>②国内・校内で実施可能な国際教育活動の実施</p>	<p>①海外との交流が再開可能になれば円滑に再開できるように姉妹校と連携を維持し準備を進める。</p> <p>②国際教育に関する国内や校内での講演会や研修を企画し生徒に発信する。</p>	<p>①交換留学再開に向け、例年よりも早い時期から情報の集約、募集、準備を進めた。新しいエージェントを使っの初年度であったが、「教務的側面」「指導面」「海外との連絡」「旅行業務」の4つの役割について、教員と業者との良い形での分業を探っていくことができた。</p> <p>②シンガポールとのオンライン交流、イタリア語</p>	<p>①留学への関心が高まるなか、本校主催の派遣数には限りがある。外部機関を利用して留学の機会をつかむためにも、本校派遣選考時期の前倒しについて今後引き続き検討する。海外交流の準備詳細についても相互国間で通年、情報を整理、共有していく。</p> <p>②シンガポールとのオンライン交流は機会を増やせるよう交渉中。希望者</p>

			レッスン、中高別全校生に国際理解講演会を実施できた。	を対象とした英語以外の外国語レッスンも、複数言語で実施を目指す。
保健室	精神的・身体的不調により支援を必要とする生徒の居場所作りや、効果的な支援方法を探る	①保健室での過ごし方や利用規定を整備する。 ②教育相談委員会内の支援チームと定期的に会議を行い、生徒を支援する体制作りを努める。 ③学年、カウンセラー、支援員と連携し、保健室をよく利用する生徒に関する情報を共有する。 ④学年・保護者・支援チーム等関係者と支援方針を共有し、支援を必要とする生徒に対応する。	支援員制度の導入により、個別の対応ができ生徒の精神面の安定に繋がった。 また、定期的な支援委員会を開催することができ、心身に問題を抱えた生徒への理解を深めることができた。	定期的な支援委員会を継続し、支援チームや学年団と情報共有し、支援方針を立て、個別の指導に活かす。
事務室	働き方改革への取り組みとして業務効率化を推進。広報募集活動、教育活動へのサポートにより定員充足を達成する。さらに経費削減、節約による双方向で財政基盤の安定をはかる。	①入試広報活動の支援 ②教務関連業務のサポート ③ICT業務の業務委託化 ④経費削減のための推進事業	①事務サポートとしての活動支援強化策については、昨年度から大きな変化はなかった。 ②生徒関連情報の一元化と最新情報の迅速な更新を達成 ③業務委託化によりサポート体制を強化、専門性の高いITサポート環境が整った。 ④光熱費など価格高騰により努力では解決できない経費に苦戦した。	業務効率は数年で徐々に進められているが、特に広報活動におけるサポートが必要となっている。 定員充足に向けた対策は次年度の喫緊の課題である。 引き続き、安定した入学者の納付金と必要な経費削減、節約による双方向で財政基盤を整える。
中学1年	①生徒の基本的な生活・学習習慣を確立する。 ②「気づくことの大切さ」を学年目標として、自他を尊重する考え方を身につけさせる。	①手帳を活用し、自己管理の手法を習得させる。 ②アサーション・トレーニングを定期的に行う。	①スケジュールや連絡を手帳に書き込む習慣を身につける事に時間を要している。学年全体としては、十分に活用するまでには至っていない。 ②道徳の時間を利用し、教科書を活用しながら学年独自の課題にも取り組めた。	手帳を「活用できる」こと、次年度の基本的な生活習慣の確立の軸とし、学力向上だけに偏らず、「生かせる力」の一環として捉えられるよう指導する。
中学2年	生徒の学力向上と人格形成を両立できる学級・学年運営を目指す。	対話・道徳・HRの3領域を相互に連携させ、「まことの間」の育成を図る。	広島研修旅行を契機として、人権・平和教育の観点から生徒の情操教育に力点を置いて指導することができた。学力向上への取り組みとしては、学力推移調査の分析結果を生徒・保護者と共有することで、学習・生活態度の改善を促すことができた。	基礎学力を向上させることが喫緊の課題である。充実期を迎えるにあたり、生徒が自らの考えを発信し、他者の意見を受容する訓練を重ねるなかで、実社会で通用する対話力を養成したい。

<p>中学 3 年</p>	<p>①学年目標「想」のもと、「人」との関係を確立し、「自己」をより深く理解させる。 ②学習活動をはじめとした学校生活全般に積極的に取り組む姿勢を育て、達成感をもった高校進学につなげていく。 ③ICT 機器や機能が自然な形で使用でき、新たな学びに生かすことができる生徒を育てる。</p>	<p>①『総合環境』の授業を通して、生徒がグループで意見交換し、協力して課題に取り組む機会を増やし、表現方法や技能を身につけさせる。 ②「キャリアガイダンス」を通して職業や社会について学ぶ機会を設け、進路の実現に向けて意欲を深めさせる。 ③「スタディサプリ」を用いて個別学習を充実する。また、GoogleWorkspace、MetaMojiClassRoom(授業支援ソフト)をより一層活用し、授業内外でのペーパーレス化も目指す。</p>	<p>①「総合環境」では調べ、議論し、発表するという技能の向上は達成できたものの、内容の理解については表面的なレベルで留まっていた。 ②「職業調べ」はできたが、職業選択について深めるまでには至らなかった。 ③「スタディサプリ」(オンライン学習ソフト)は授業課題や中学内容の復習を目的に生徒が自主的に利用できた。GoogleWorkspace、MetaMojiClassRoom の活用も教科指導、諸連絡などのための利用が一層進み、有効に利用できている。</p>	<p>①来年度の「自己探求」はグループ、個人での研究内容や発表する内容の深さが課題である。 ②文理選択に向けて、職業選択につながる学部学科研究や大学研究を深める必要がある。 ③「スタディサプリ」の個別利用をより進め、高校内容の復習と理解の深化につなげる。 GoogleWorkspace、MetaMojiClassRoom の活用をより活発にしている。</p>
<p>高校 1 年</p>	<p>①総合学習や新課程の授業を通して、生徒が社会や学問への視野を広げる機会をつくる。 ②基礎学力の定着を図り、生徒自身の進学したい大学やその後の進路について、主体的かつ前向きに考えさせる。 ③学年目標のもと、和光会活動や学年行事に主体的に取り組む生徒の育成に努める。</p>	<p>①総合学習「自己探求」の時間をはじめ各授業での学習活動を大切に、生徒が主体的で対話的な学びを深めることに配慮する。 ②面談やLHR、授業の機会など学校での活動全般を通して、生徒のモチベーション向上を図り、学力保障と進路情報の提供に努める。 ③感染症対策を施したうえで、学校行事や学年行事に積極的に参画するひとりひとりの責任と意識を持たせる。</p>	<p>①専門分野の方へのインタビューやディスカッションを通して得た情報をもとに考えを深め、プレゼンテーションに活かすという主体的学びが実践できた。甲南大学リサーチフェスタへの参加など、外部に発信する場を提供することもできた。 ②進路情報の提供は、GoogleClassroom を効果的に使って随時行った。進路実現に向けてモチベーションを高めて学習する生徒が増えた一方、まだ意欲の低い生徒が一定数いる。 ③東京研修旅行に多くが参加することができ、和光会役員や部長に多数の生徒が立候補するなど、学校生活の中心学年となった。</p>	<p>①自己探求の授業は今年度で終わりとなるが、主体的な学びの姿勢を次年度以降の授業でも発揮できるように、授業の構成を工夫する必要がある。また、授業外で探究活動を継続できるように学年でサポートできる体制づくり、外部のイベントへの参加を促す。 ②継続して、状況に応じて進路情報を効果的に提供していく。 ③自身の立場に見合った行動と高い意識をもつことを生徒には求め、行事が円滑に進むだけでなく生徒自身が行事に関わったことで充実感、達成感を味わえるように指導する。</p>
<p>高校 2 年</p>	<p>①生徒が充実感・達成感を得られるような教育活動の実施 ②学力の向上、前向きな進路指導</p>	<p>①生徒が様々な活動に積極的に参加しチャレンジする機会を大切にして、進路指導に活かす。 ②生徒の文章力、特に要約力</p>	<p>①LHR等で、生徒が参加している学外活動について発表する機会を設けた。同級生が積極的に社会参加している様子を知</p>	<p>学業や学外・学内(部活動や和光会)活動に積極的に取り組む生徒の姿勢は、学内外で評価していただけることが多い。そ</p>

	③「チーム学校」としての支援・指導。生徒の声を聴き、受け止める姿勢を大切にする体制を作り、支援・する。	を上げるための機会を定期的に設ける。 ③個人面談や保護者面談、様々な指導についてチームで対応する。学年行事の充実を図る。	ることは多くの生徒の刺激となった。 ②教師が紹介する様々な文章を読む機会と、新聞記事を読み要約を行う練習の時間を毎週設けた。 ③生徒・保護者の協力を得て、健康管理に留意し、修学旅行を無事実施することができた。	の姿勢を勉学に活かし、主体的に進路を実現する力となるよう指導・支援することが今後の最大の目標であり課題である。学力面のみならず精神面においても生徒理解を深め、生徒の成長に力を尽くしたい。
高校3年	①生徒一人一人の進路実現に向けて、生徒自身が主体的・自立的に取り組める環境作りを学年団でサポートする。 ②校訓である「清く 正しく 優しく 強く」の意味を考えさせる機会を設け、感謝と思いやりの念を持てるよう支援する。	①進路実現に向けて生徒自身のやるべきことを把握させ、行動できるように、面談やHRなどを通じて考えさせる。 ②行事など学校での経験が、高3ではすべて締めくくりとなることを意識させる。また、6年間の学びを振り返り、日々の過ごし方の大切さを理解させる。	①多くの生徒の進路実現に向けて、学年担当者、進路指導部とともに細やかな面談、面接指導、補習等を行った。 ②学年通信を通じて校訓に触れる機会を増やした。	①卒業後も進学準備をしている生徒に関しては、引き続き進路実現に向けてサポートしていく。 ②コロナ禍で縮小した部分もあるが、全ての学校・学年行事を実施することができ、本校での学校生活の締めくくりを意識し、日々の大切さを理解させることが出来た。
国語科	高校新教育課程、大学入学共通テストを念頭に置いた授業展開の研究。 ICTを活用した授業による双方向的な学習の実現。	〔基礎期〕さまざまな文章・資料の読解を通して、社会的視野を広げ、論理的思考力を養うとともに、記述力の育成に取り組む。また、基礎的な古文漢文に慣れ親しませる。 〔充実期〕生徒が抽象的で難易度の高い現代文を的確に理解し、要約する力をつけ、それを表現や発表に活かせるようになるよう意識した指導を行う。また、語彙や文法を駆使して古文・漢文を読み解く力を身につけさせる。 〔発展期〕複数の文章や資料の読解、小論文記述演習を重ねることで、読む力とともに書く力を身につけさせる。また、演習を重点的に行い、発展的な内容の古文漢文を読解できる力を身につけさせる。	高校新教育課程に対応するため、新たなループリックの作成や教材の選定を行うことができた。 使用教材の記録、教科会議事録蓄積など学習場面以外でもICTを活用することができた。	高校新教育課程をふまえた共通テストの分析を強化し、適切な使用教材や授業内容の検討を継続する。
社会科	高校新学習指導要領にもとづく3年間の授業内容の確立	高校新課程において、公共ならびに探究科目において、各単元の到達目標および評価の観点を選定したループリックを完成させる。 歴史総合・地理総合と探究科目との連携を検討し、自ら考察する場面を増やすとともに、高校3年間で身につけさ	公共ならびに探究科目のループリックについて、高2・高3の2年間の到達目標をふまえた中で、高2の観点を定めることができた。	歴史総合・地理総合の履修内容が多いため、内容を精選したうえで、探究科目と連携させる必要がある。

		せたい力を確立させる。		
数学科	<p>①数学的な見方や考え方をするために必要な知識・技能を身につけさせる。</p> <p>②数学的な見方や考え方を、思考・判断・表現する力を身につけさせる。</p> <p>③数学の学習を通して、主体的に学びに向かう力を育て、社会に貢献する人間力を身につけさせる。</p>	<p>①適切な課題や小テストの実施などにより授業の定着度をあげる。</p> <p>②発問の仕方や授業内容の振り返りを工夫したり、生徒同士の話し合いを取り入れたりする。ことによって、生徒自らが考察し、結論を導き出す場面をつくる。その際、ICT 機器を積極的に取り入れる。</p> <p>③②の過程において、生徒の興味関心を引き出したり、協働の中で自分の適性や役割を意識させるなどする。</p>	<p>ICT 機器を積極的に取り入れながら、全体的には概ね目標を達成している。しかし、生徒個々についての達成度には差があり、学年や単元によっては、課題や小テストの作成・実施に多くの時間を取られ、具体的方策の②や③の達成度が不十分になることがあった。</p>	<p>教員の時間の有効活用のため、教員作成教材の共有を進める。また、生徒の達成度に差があることから、個別対応のために教科書会社等が作成した教材の活用を検討する。</p> <p>数学の学習における「協働」の事例を研究する。</p>
理科	<p>科学的なものの見方や考え方を身につけさせる。</p> <p>タブレットなど ICT を効果的に学習に活用した学習活動を展開する。</p> <p>共通テストへの対応を強化する。</p>	<p>授業内容から日常生活などに関連させた授業展開を行う。</p> <p>感染対策・実験事故防止対策を行いながら、実験実習に取り組む、体験・経験する機会を積極的につくる。</p> <p>教科内で情報交換を積極的に行い、授業に効果的に ICT 教材を組み込む。</p> <p>MetaMojiClassRoom・Google Classroom の活用など昨年度までの実績をもとに、ICT を利用した教育を定着させていく。</p> <p>共通テストをはじめ、入試問題の分析を行うと同時に、外部からも積極的に情報収集を行う。</p>	<p>自由研究や実験レポートなどで科学的なものの見方や考え方を身につけさせることができた。</p> <p>デジタル資料集などを活用した学習活動を展開することができた。</p> <p>共通テストへの対応を授業、補習など通して強化することができたが、教科内での情報共有など工夫ができる点もあった。</p>	<p>自由研究や実験レポートの作成指導などは次年度も継続。</p> <p>資料集をデジタル版に変えてタブレットで利用することに、生徒からは賛否両論が寄せられているため、教科内で情報を共有し、今後の活用方法について考えていきたい。</p>
英語科	<p>①Writing や Speaking など、生徒が英語で意見を発信する力を伸ばす。</p> <p>②ICT 機器を使った授業を充実させる。</p> <p>③1 年ごとの生徒の英語運用能力の伸びを測定し、長期的な観点で学力指導にあたる。</p>	<p>①Weblio(オンライン英会話)や、MetamojiClassRoom を利用した添削指導など、生徒が英語で自己を表現する機会を増やす。</p> <p>②タブレット端末を使用したリスニング試験の実施や、MetaMojiClassRoom を利用した音読課題など、教員・生徒とも ICT 機器を有効活用できるようにする。</p> <p>③中 2 から高 2 の生徒を対象に毎年 TOEFL を実施し、1 年間での英語運用能力の伸びを測る。</p>	<p>①weblio やスマコレ(英作文添削システム)などのツールを利用し、生徒に発信の場を提供することができた。</p> <p>②ICT 機器の利用が効果的な場面を研究し、積極的に活用することができた。</p> <p>③予定通り、TOEFL を実施することができた。</p>	<p>①生徒が発信する姿やその内容を観点別評価に反映できるようにする。</p> <p>②ICT 機器の活用について、教員同士で情報を共有し、より効果的な活用を目指す。</p> <p>③準備不足で実施直前に作業に追われる形となった。計画的に準備を進めていきたい。</p>
体育科	<p>自らが運動やスポーツに親しみ、運動習慣を身につけることによって、たくま</p>	<p>①生徒自らが興味・関心をもつよう段階的に指導を行い、運動・スポーツに親しむ身体</p>	<p>①サッカー、野球などの世界大会の話題が多く聞かれたことから、体育・ス</p>	<p>体育、保健の授業だけでなく、保健室とも連携して、怪我の予防、危機察知</p>

	しく生きるための体力の向上を図る。	<p>的能力の基礎を養う。</p> <p>②怪我・病気から身体を守る体力を強化するとともに、それらを予防、回避する能力を育成する。</p> <p>③タブレットなどICTを効果的に利用した教育を導入する。</p>	<p>スポーツへの興味、関心を持つ生徒が増えたように思う。</p> <p>②体育授業時の怪我は減少してきたが、今後も体力の強化とあわせて危機管理能力を高めていきたい。</p> <p>③今年度は、効果的な使用はできなかった。</p>	<p>能力、危機管理能力の向上につとめる。また引き続き感染症対策にも取り組みながら、健康の保持増進と体力の向上を目指す。</p>
芸術科	<p>①音楽・美術・書道それぞれの芸術観を養うとともに表現力の育成を目指す。</p> <p>②相互鑑賞の機会を設ける等、音楽・美術・書道で連携した芸術活動を目指す。</p>	<p>①外部機関(対面・オンラインを含む)との連携による教育活動や様々な鑑賞の機会を通して芸術的感性の向上を目指す。</p> <p>②学校施設を利用して、芸術鑑賞の機会を設ける。文化祭における芸術科の部屋の展示に加えて、校内での展示などの機会を増やす。感染対策を徹底したうえで相互鑑賞を行う。</p>	<p>①音楽・美術・書道それぞれの授業において、鑑賞や作品制作を通して芸術観、表現力の育成に取り組んだ。外部機関と連携した鑑賞の機会を設けることができていない。</p> <p>②文化祭を始めとして校内での作品展示を頻繁に行い、コーラスコンクールで音楽の授業の成果を鑑賞しあえた。</p>	<p>①外部機関と連携した鑑賞等の授業については、来年度の融合芸術の授業を中心に、機会を設けて芸術的感性の向上を目指したい。</p>
家庭科・情報科	<p>家庭科では生徒の対話や協働に繋がる工夫をする。コロナ禍において制作や実習を行うことは困難ではあるが、予防対策を徹底させることで実技面での充実をはかり、タブレットの利用で対話的活動を促す。これらことにより、他人との協調する姿勢を身につけることを目指す。定期考査の内容に新入試を意識した問題を取り込むことで思考力・判断力に資するよう刺激を与える工夫する。</p> <p>情報Ⅰが新課程での共通テストに加えられることを鑑み、科学的な見方・考え方を育て、情報技術を活用して問題の発見・解決を行うことができる生徒を育てることを目指す。</p>	<p>多くの実習・活動を行うことができる教科の強みを生かして、感染予防対策を徹底し、引き続き対話的・協働的な学びができるような働きかけを行っていく。</p> <p>また、GoogleClassroom や MetaMojiClassRoom を活用し、他教科との連携を今まで以上に図ることで、複合的な力を涵養する科目であることを目指す。情報科においては更に Web 教材も活用し、より実践的に取り組んでいく。</p>	<p>①中学技術家庭科 各学年の内容に沿ってタブレットの利用や作品作りをする中で、多方面から物事を見て考える力をつけることができた。しかし近年、実習を含め集中力が続かず話を聞けないう、細かな作業を苦手とする生徒が増えていることが課題として挙げられた。</p> <p>②高校家庭科(選択含む) 新教育課程の家庭基礎に「経済・投資」が導入され、生徒が興味関心を持って熱心に取り組めるよう指導することができた。</p> <p>選択科目の「ライフデザイン」「フードデザイン」においては、自主性、自立性において生徒の成長が見られた。</p> <p>③高校情報 現高 1 学年から情報Ⅰが大学入試共通テストに導入されることから、受験を意識した授業展開を心</p>	<p>①中学技術家庭科 細かな作業を苦手とする生徒の割合が高くなっていることから、製作物の内容や時間配分を検討し直す必要がある。</p> <p>②高校家庭科では、他と協調して実習などを行う姿勢を身につけさせながら、生徒の思考力・判断力の向上を目指して内容を工夫する。</p> <p>③情報Ⅰでは大学入試に備え、個人の能力差の幅を少しでも抑えられるよう工夫したい。</p> <p>コロナ禍において、感染対策のために中学・高校とも実習の実施方法に制限をかけていたが、今後は感染対策に気を配りながら、可能な限り従前の方法に戻す。</p>

			<p>がけた。しかし、数学的な要素が多いため、理解度に大きな個人差が生じた。</p> <p>高3はPCの基本的な操作からExcel,PowerPointの使い方や考え方の理解を深め、さまざまな事象におけるアルゴリズムの重要性を理解した。高1同様個人差は大きかった。</p>	
<p>道徳(中学のみ)</p>	<p>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習</p>	<p>自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考える能力が育つよう「道徳」「総合的な学習の時間」の中で、教員の講義のみならず、生徒同士のディスカッション、ダイベートなどを積極的に取り入れる。</p>	<p>教科としての道徳の授業を通して、目標は概ね達成できた。生徒同士のディスカッション、ダイベートなどは不十分な部分が残った。</p>	<p>教科書を軸とした、緻密な授業計画。その上で、担当者の個性で彩られた授業の実施。</p>